

進路のしおり

～ 新たな挑戦 ～



養護学校を卒業し、社会へ出て様々な困難を感じながらも、豊かな生活を目指して努力し、自立したり夢を実現している方々がたくさんいます。

夢を実現させるためには努力を続ける忍耐力と、新しいことにチャレンジする勇気が必要です。また、それを支えてくれる方々の力も大切です。

今回は「新たな挑戦」を後押しできるのではないかと思われる内容を取り上げてみました。

<目次>

自立に向けて	P.1
福祉サービス	P.3
お役立ちHP	P.4
サポートブック	P.5
自立への道	P.8
家庭生活	P.11
施設紹介	P.12

何度も落ちたけどあきらめなかった！！

- 養護学校を卒業し、県リハで訓練を受けた後に就職した二人の体験談 -

宮代養護では、7月13日の日曜授業参観において、喜讀洋平さんと佐久間美華さんの2名の卒業生をお呼びして、授業の中で在学中のこと、卒業後県リハでのこと、就職活動、現在の仕事、後輩たちへのアドバイス、について話してもらいました。二人は、養護学校を卒業後、県立リハビリテーションセンターで若年者プログラムに進み、その後職業訓練を受け、それぞれ就職することができました。以下にまとめたものを紹介します。

佐久間さん

1 私は12年間養護学校に通った。総合的な学習の時間では、自分たちで考えるのが難しかった。先生方に手助けしてもらうために自分の考えをまとめて話すのが大変だった。高等部3年になってリーダーシップがとれるようになった。母に送ってもらえるから良いと思っていたが、自分で電車やバス、タクシーの乗り方を覚えた。三時過ぎまで残れたので授業の補習やわかば祭の準備ができた。自分は緊張すると早口になり、人と話すのが難しいが、胸元を見ると良いと教わった。

2 県リハの若年者プログラムでは、何をするか自分たちでまとめる6人の話し合いが大変だった。分からないということを相手にきちんと伝えないといけない。自分が良ければそれで良いというわけではない。駅員さんや交番の警官をはじめいろいろな周りの人の力を借りて行動することもやった。

3 県リハ2年目から職業訓練を受けた。パソコンでワード、エクセル、CADなど

4 就職活動は、2年目の7月くらいから。どういう仕事をしたいか、どういう仕事に向いているかもわからなかった。デザインはすごく勉強をしないといけないということがわかった。就職活動では



20社くらいまわった。障害者雇用説明会が年3回、一般向けにも行った。5分間の面接で自分の良いところをアピールするのが難しかった。一人で10回くらい行ってダメだったので、県リハの支援員さんに一緒に行ってもらおうようにした。

就職できた東埼玉病院は、ハローワークで調べて、支援員さんに電話をしてもらい面接にこぎつけた。パソコン入力では補助具(キーボードのカバー、トラックボール)を使用しているが、わかりやすいようにデジカメで撮影したものを履歴書に添付した。自分の障害の状況を全く知らない面接の人に説明するのはとても難しかった。

5 後輩たちへのアドバイス

相手に何かを伝えること、自分のことを他人に知ってもらう。外に出て行くためには、より多くの人に知ってもらうのが大切。できないことは多いけれど、工夫して自分なりにやっていく。

6 在校生からの質問と答え

Q1 CADってなんですか？

パソコンで思った通りに線が引けて、図形がかけたりできます。

Q2 緊張したときどうしますか？

一回深呼吸して、相手に伝えようと相手の目を見ます。

Q3 若プロで行ったところは？

デパート、鴻巣の免許センター、社会保険事務所など。

Q4 リーダーシップとは？

声かけすること。





きとく
喜讀さん

1 養護学校在学中は自立に向けて先生たちも厳しい。先のことは県リハで考えれば良いと思っていた。大人の目を気にして、先生たちが喜んでくれると思って行動していた。ハンデがあるのに何でと思ったこともあった。音楽では怒られたが声を出せることが楽しかった。スポーツ大会も机の上の勉強とは違う。

2 県リハに行って評価が気になった。「大事なのは自分がどうしたいか」「やるのは自分だから自分が納得がいくように」と言われた。両親に対して、進路のような難しい事だけでなく、普段から自分の意思を出していかないといけない。若年者プログラムでは話し合いで話をまとめるのが大変だった。外へ出る経験の差が出た。一般事務の訓練はエクセルとワード、簿記。簿記ははじめはどんなことをするのかは分からなかったが3級までとることができた。

3 就職活動は県リハの2年目、就職までに1年半かかった。初めての面接は2次までいったので、御徒町まで行く練習もしてから行った。面接では通勤できるかということがポイントになった。車椅子可と書類にあっても実際には段差があったりした。何度も落ちている内に世間は冷たいという気持ちにもなった。自分は10社ちょっと受けたが80社以上受けた人もいる。落としてもらうために受けているのではないので、自分のハンデに応じて選んで行かなければいけない。なかなか決まらない間は地元の作業所とつながりを持っていた。

4 就職は県の障害者雇用促進事業で、ウイングルという障害者雇用を仲介する会社を通して決まった。面接の時と実際にやっている仕事は違っていた。今はホームページの広告やアクセス数のチェックをしている。みんなと同じにできないという気持ちがあって寝られないときがある。

5 通勤は往復4時間かかる。給料は手取りで11万、年金も入る。給料をもらうことで活動の範囲が広がる。夏休みに野球観戦に行く。楽しみがないと働く意欲も湧かない。大いに楽しいことを見つけてやるべきだ。通勤は大変だが、仕事のない状況を経験しているのでやめたいとは思わない。

6 後輩たちへのアドバイス
自分でやることと手助けしてもらうことを考えて行動する。

自分の気持ちを大切に、自分のために行動する。

世の中は冷たい。助けてあげたいと思う人になること。

助けてもらってやることも自立。

自身が体験したことを通し、後輩たちに熱く語ってくれた時間はあっという間に過ぎてしまいました。「あきらめずに挑戦し続けること」「自分の夢を持ち続けること」が大切なんだなあ実感しました。見事に就職し、働き続けているふたりは、大きく輝いているように見えました。後輩たちそして参観した保護者の方から大きな拍手が送られ授業は終わりました。

県立リハビリテーションセンターの若年者プログラムは一昨年度に終了しました。県リハの担当として、養護学校卒業生の成長を長年にわたり見守って下さったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

文責 石川 岳男

自立に向けて





福祉サービス

使っていますか 福祉サービス

<税金の控除等>

- ・所得税の控除
特別障害者控除で40万円
それ以外で 27万円
- ・市・県民税の控除
特別障害者控除で30万円
それ以外で 26万円
- ・相続税の控除・贈与税の非課税
- ・自動車税・自動車所得税の減免

<各種手当>

- ・各種手当
特別児童福祉手当
月額 14,380円
特別障害者手当
月額 26,520円
在宅重度障害者手当
児童扶養手当
特別児童扶養手当
1級 50,900円
2級 33,900円

*扶養者の前年所得が一定以上だと受け取ることができません。

また、障害児が施設に入所していると受け取ることができません。

<福祉サービス>

- ・生活サポート事業
在宅の障害児・者の地域での生活を支援するため、市に登録した団体が児童一時預かり、見守り、入浴援助、移動支援（送迎）、外出援助などのサービスを提供。
1時間 950円～0円
自治体や本人の所得によって異なり、年間で150時間の利用上限が設定されている。

サービス内容

- 児童一時預かり、見守り、
- 入浴援助、
- 移動支援（送迎）
- 外出援助

- ・障害者自立支援法のサービス
利用するためには、福祉課窓口で申請し、障害程度区分の判定を受ける。利用に一定の自己負担がかかる。申請から支給までには、一ヶ月以上かかることもあるので、余裕を持って早めに福祉課へ相談に行きましょう。

サービス内容

ショートステイ、日中一時支援（日帰りショート）相談支援、
居宅介護（自宅で食事、入浴、排泄などの援助がしてもらえる）
移動支援（通学、通所には使えないので、通学には生活サポートで、買い物や遊びなどの外出には自立支援でというように使い分けると良いのでは。）

<公共料金の減免>

- ・JRの運賃割引
介助者と共に乗車する場合、料金が半額。
- ・バスの運賃割引
埼玉県内は半額、ただし定期券は30%引き
- ・タクシー運賃の割引
運賃の10%の割引
- ・有料道路の割引
割引率は50%以内
- ・NHK放送受信料の免除

<その他>

- ・日常生活支援
車椅子、補装具等の制作に関わる費用の補助
- ・住宅
県営住宅入居の優遇、重度障害者居宅改善整備の補助

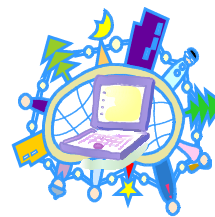
*ここに掲載した福祉サービス以外にも受けられるサービスはありますし、各市町村によって金額にも差がありますので、詳しくは各市町村で発行している「市福祉ガイド」等をご覧になるか、福祉課の窓口でご確認ください。まずは、生活支援センターにご相談されるのも良い方法です。

(日本肢体不自由児協会

「障害児の医療・福祉・教育の手引き」より)



障害者のための ホームページリンク集第2弾



お役立ちHP

お役立ちホームページ集

パソコン、インターネットの普及により、障害者の情報収集にも変化が出てきています。日常生活や外出、旅行、余暇活動などに便利だと思われるホームページを一部修正して紹介しました。パソコンによる情報収集のきっかけにして頂きたいと思います。

< 就労支援 >

- ・各地区の障害者就労支援センターがありますので、検索してください。
- ・東京障害者能力開発校 <http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/school/handi/index.html>
- ・国立職業リハビリテーションセンター <http://www.nvrcd.ac.jp/>

< 外出時には >

- ・バリアフリーマップ <http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/link/bfmapken.html>
- ・らくらくおでかけネット <http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/>
- ・だれでもトイレ <http://daredemo.sohokoganei.org/toile/index.html>

< 介助が欲しい時は >

- ・県社会福祉協議会 <http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama00/>
- ・各市町村社会福祉協議会やボランティアセンターを見てください。

< 旅行や遠出する時は >

- ・全国旅行・観光情報（体の不自由な方に役立つ旅行・観光ページ集）
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/harunobu/travel/handicap.htm>
- ・障害者の旅行を考える会 <http://www16.ocn.ne.jp/~tad1999/>

< 総合情報サイト >

- ・ワムネット WAM NET <http://www.wam.go.jp/>
- ・ふくしチャンネル <http://www.fukushi.com/>
- ・検索デスク <http://www.searchdesk.com/>

< 行政関連 >

- ・埼玉県庁ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/>
*各市町村ホームページでは障害者プラン、ガイドブックなどを見ることができます。
- ・埼玉県特別支援教育課 <http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BN00/hp/temp/temp.html>
- ・自立支援法早わかりガイド http://www.wam.jp/shienhou_guide/

< 生活支援 >

- ・埼玉県権利擁護センター <http://www.city.okegawa.lg.jp/cts/501000/40020n/40020n.html>
- ・障害年金サポートセンター http://www.syougai.jp/types/type_a.html
- ・認定調査員マニュアル（障害程度区分）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jiritsushienhou08/pdf/4.pdf>
- ・日本障害者センター <http://shogaisha.jp/center/>
- ・日本肢体不自由児協会 <http://www.normanet.ne.jp/~jsdc/index0.html>
- ・全国自立生活センター <http://www.j-il.jp/link/index.html>
- ・福祉機器情報 <http://www.hcr.or.jp/exhibition/index.html>
- ・障害者の社会復帰 <http://www.social-rehabilitation.net/>

このページに対するご意見やご要望は巻末の各学校進路担当者までお寄せ下さい。



サポートブックを作ってみませんか

子どもたちは学校や社会でたくさんを経験しながら成長していきます。しかし、障害のある子どもたちは、限られた人たちとの接触しか経験できず、社会経験も不足がちになります。

親御さんにしてみれば、なかなか知らない人たちにお子さんを託すことはできないかも知れませんが、又、託したとしても説明をしなければならぬことがたくさんあることでしょう。相手側にしてもお子さんのことが分かるものを欲しがっていると思います。

「サポートブック」とは、学校やレスパイトサービスなど両親以外の人とお子さんが接するときに、どのような注意事項や禁止事項があるのかをわかりやすくまとめたファイルです。

「サポートブック」は知的障害や発達障害のお子さんを持った親御さん達を中心になって、作成し親の会やインターネットを通じて広まってきたものです。

今回、肢体不自由養護学校の児童生徒たちにも使える項目を考えた試作版を紹介いたします。

<作成について>

内容については、

1. プロフィール
2. コミュニケーション
3. 飲食
4. 身辺自立
5. 行動
6. 気をつけてほしいこと
7. その他

を考えました。これら7つのページに知っておいてほしいことを記入します。

読む人が分かりやすいように、客観的に具体的に書けるとよいと思います。

この項目以外にも知っておいてほしいことがあれば、同じくらいの大きさの紙に必要なことを付け加えて下さい。

ページごとに切り離して、小型のクリアファイルや小型アルバムに入れて持ち歩けるようにします。(写真のものは小型アルバム)

文章で説明しにくいことがあれば、図や写真を入れてもいいと思います。

今回の試作版を使わないで、使いやすいものを工夫して作ってみてもよいと思います。



参考までに「サポートブック」について扱っているインターネット上のホームページを紹介いたします。

埼玉県自閉症協会

<http://saitama-asj.hp.intoseek.co.jp/>

ひょうご発達障害者支援センター

<http://homepage3.nifty.com/auc-cloven/html/06.html>

石川県立七尾養護学校

http://www.ishikawa_c.ed.jp/nanaos/html/7_kyouzai/supportbookver4.html

山形県ホームページ

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkoufukushi/09/007/supportbook.html>

他にもたくさんあります。「サポートブック」で検索してみてください。

サポートブック

氏名	
愛称	

写 真

2 コミュニケーション

コミュニケーションの方法

YES,NO の表現方法

要求するときの方法

その他の特徴

4 身辺自立

排泄について

衣服の着脱について

入浴について

就寝について

6 気をつけてほしいこと

身体に関すること

対人関係に関すること

その他

3 飲 食

食事のとり方

水分のとり方

好き嫌い・アレルギー

1 プロフィール

学 校 名			
学 部		学 年	年
生年月日	年	月	日
血 液 型			
住 居			
所			
連絡先 1(自宅)			
	2()		
	3()		
かかりつけの病院(医師)			
	(Dr.)		
TEL			
服薬(薬名・いつ・どの様に)			

5 行 動

移動の方法

移動の時の注意事項

好きな活動

嫌いな活動・禁止事項



勇気を出して行動する大切さ

吉野 大地

(日高養護学校 平成15年度卒業)

私は4年前に日高養護学校を卒業し、今は不動産屋でパート社員として勤務しています。早いもので、入社して1年半が経とうとしています。

小1から高3まで日高養護学校で過ごし、「力をもっと引き出したい」という思いから、埼玉県総合リハビリテーションセンターに入所し訓練に取り組みました。最初は家以外の場所で生活したことがなかったので、「社会に出るためにがんばろう」という思いでいましたが、生活に慣れてくると、いつのまにか一日をただ楽しく過ごしてしまうようになってしまい、将来への目標を見失い、「困ったら誰かが助けてくれるだろう」という思いからあまり行動も起こさず、言い訳ばかりして仲間と遊ぶことに夢中になり、2年間が飛ぶように過ぎ去ってしまいました。

仕事も決まらず、後悔だけを残し自宅での生活に戻りました。「ふくらんではしぼみ、ふくらんではしぼみ」どん底まで落ちていき、自分が大嫌いになっていきました。

悶々とした日々が続いていたある日、「じっとしていても何も変わらないよ」と心の中の声が聞こえました。そこで、「そうだ！まだやれる！やれるだけやってみよう！」と腹をくくり、就職活動を再開しました。

一般就労にこだわったのは、制度が自立支援法に変わり、作業所に通うと利用料を自己負担しなくてはならなくなるという理由からです。

暇さえあればハローワークに行き、条件にあった企業には履歴書を送り、面接を受けさせてもらう日々でした。しかし世間の風は冷たく、たとえば面接会場に向かう途中で砂利道や坂に出くわしたり、やっと見つけた障害者用トイレで、



健常者がすぐ横にトイレがあるにもかかわらず独占していたり、ひどい時には中で煙草をすったり食事をしていたり、腹の立つことばかりでした。

また自分の障害の重さを痛感し、落ち込む日もありました。しかし、つらい時期でも、前向きに取り組んでいる自分を発見し、「自分がだんだんきれいになっていくような」、そんな感じもしました。

今の会社に決まった時は、嬉しさより不安が大きく、「スーツを着て清潔に通えるのか」とか、トイレや食事の問題、自分の業務の遂行能力のことなど、考えれば考えるほどものすごく怖くなっていきました。でも一度決めた道、やれるだけやってみようと思ひ、生活のリズムを体に叩き込みました。

平成19年の4月にトライアル雇用でスタートし、2ヵ月後には正式に採用され現在に至っています。業務内容はパソコン作業で、データの打ち込み、グラフの作成が中心です。扱ったことのないソフトにも出会い、やり遂げた後の達成感は言葉では表現できません。

最後になりましたが、幸せは誰かに与えられるのではなく、己の気持ちと行動でつかみにいくものだということを学びました。もちろん、たくさんの方たちの協力があってこそ今の自分がある、ということを忘れないようにしたいし、「できない」ではなくて「こうなりたい」と勇気を出せば、いくらでも乗り越えられると今では信じています。

一度きりの人生、満喫できるように努力を続けていきたいと思っています。





11社目で獲得した就職内定

「小平?...打たれ弱い自分を克服しようと思って」
 越谷養護学校 平成17年度卒 かいほう 海宝大介



- 久しぶりですね。元気!?...今日の越養祭はどうでした?

海宝さん「お久しぶりです!今日は懐かしかったですね。僕もあのステージに上がったんだって思い返しました。」

- 卒業してもう3年目になるんですね。現在は何をしていますか?

海宝さん「はい。今は八潮市のナカ工業(株)というところに勤めています。総務部で経理を担当しています。そうですね、具体的に言うと各営業所から送られてくる請求書をコンピューターに入力する...伝票整理と言えればわかりやすいでしょうか。伝票をデータベースで入力していくんですが...会社独自のソフトがあるんですよ。で、ボクが入力したデータにしたがって月末に業者にお金が支払われる訳なんです。」

- 責任重大な仕事なんですね。

海宝さん「そうですね。結構重いですよ、責任(笑)。」

- この会社に就職する前には小平で勉強したんですよね?

海宝さん「はい。高等部を卒業後に小平の障害者能力開発校に進学しました。そこで9ヶ月間...勉強しましたね。内容はパソコン...ワード、エクセル、パワーポイント。何だかんだガミガミ言いながらも先生は優しく、けっこう楽しく学べました。データ入力はやくなって、それが自信になりましたね。」

- 卒業後すぐに就職しようと思わずに、なぜ小平に?

海宝さん「うーん、そうですね...打たれ弱い自分自身を克服しようと思ったからですね。もし、ボクが高等部を卒業後、運よくそのまま就職できたとしても...すぐにやめてしまっていたかもしれない。ボクって何かできないことを

指摘されたりすると、すぐに落ち込んでしまうところがあって...打たれ弱いところがあったんですよ。だから、小平で専門的な技術をみっちり身につければ自信がつくかなと。楽しいながらも厳しい環境の中に身を置いて、鍛えられたおかげで打たれ強くなりました(笑)。それで、なんとか一般の会社でもやっていけそうかなって、そんな自信もけっこうついて。」

- それで今の会社に採用されたと。

海宝さん「とんでもない(笑)。一昨年の9月から面接会に出て、何とか11月に内定が取れた。先生、ボクが何社の入社面接を受けたと思いますか?.....11社です。11社も受けて、やっと1社(笑)。厳しいですよ。一昨年の11月に内定がとれて、去年の4月から働き出したんだから、今は働き出して2年目の冬を迎えたというわけですね。」

- 受けた会社は...一般の?それとも特例子会社とかも?

海宝さん「いえ、すべて普通の一般企業です。生命とか、工業とか大手もずいぶん受けたんですが(笑)。」

- いやあ、立派ですよ。素晴らしい。...小平では寄宿舎住まいでしたね。

海宝さん「そうです。でも、通いでもいいんですよ。ただ、交通の便が悪いから寮に入っている人がほとんどですね。それに、勉強だけに集中するためにも寮に入った方がいい。寮は2人で





自立への道

1部屋で...ボクの場合は40歳すぎの人と同室でした。年の差があっても、うまくやれました。相手が大人だったからなのかな(笑)。」

- 今の会社でも同僚はみんな年上の方たちばかりですよ?可愛がってもらえてる?

海宝さん「年上ばかりですね(笑)。」

15人ぐらいのいるフロアでボクは一番年下ですよ。可愛がって欲しいところだけど...そんなアットホームな雰囲気じゃないですからね(笑)。」

- いただいている給料とか聞いてもいいですか?

海宝さん「もちろん。今は15万円前後ってところです。毎月、家にも少しですが入れています。あとは自分の好きなもの...ボクは本を読むのが好きなので、本とかを買うことが多いかな。」

- 今の会社での仕事、続けていけそうですか。

海宝さん「はい。どうしても仕事のスピードは健常の人たちに比べれば遅いんですが...課長が“遅くてもいいから、確実にやってくれ”って言うてくれるんで。正確に、着実にやっていこうと思っています。気疲れもしなくてすむし、やっていけると思っています。少なくとも、やめたいな...なんて思ったことは今までないですから。」

- そうですね。よかったですね。今後はどのような目標を持って?

海宝さん「できれば定年までこの会社で働きたいと(笑)...思っています。長続きできるように、これからも頑張っていきたいですね。それと、今は親と一緒に住んでいますが、将来的には一人暮らしがしたいですね。でも、給料が上がらないと...今のままではちょっと無理かな(笑)。」

- (笑)最後に、後輩たちにメッセージを。

海宝さん「はい。そうだなあ...うん、自分の得意とすることを何でもいいから1つ、誰にも負けないぞっていうレベルまで引き上げる努力をしましょうってことかな。それができてからでも...、就職するには遅くない。そう思います。たとえばボクの場合だって、高等部を卒業してから小平の障害者能力開発校に行っただけで、積み重ねたわけだけど、決して回り道ではなかったと思っています。中でも、あの学校に行っているいろいろな年齢の人たちの中でもまれたこと。様々な人の、様々な考え方を知ることができたのはすごく勉強になりました。年齢はちがっても、その目標とするところは同じ。就職しよう、はたらいて自立しようという目標を同じくする者同士として、年齢の上・下関係なく話をしたり、励まし合ったりしたことは、ボクの大きな財産になったと思っています。将来、働こうと考えている後輩にも、ぜひ焦らずに自分を磨く場を持って努力し続けていってくださってほしいですね。」

- 今日は、本当にありがとうございました。これからも頑張ってください。

*平成20年11月 越谷養護学校文化祭来校時にインタビューしました。



息子との時の中で・・・

自立生活センター遊TOピア

事務局長代行 高橋 美香

埼玉県立熊谷養護学校を卒業して数年の歳月が経ちました。

私は「脊髄性筋萎縮症」という難病を持ってこの世に生まれてきました。神経系の病気で筋肉が萎縮し、徐々に筋肉が低下していくという進行性の難病です。病気の進行は小学生高学年の頃がピークで、その後は穏やかになりました。しかし今現在も少しずつ進行しています。

熊谷養護学校を卒業後は、自立生活センター遊 TO ピアに関わり充実したワーキングライフを送っていました。しかし3年前、私の人生は大きく変わりました。

私は母になったのです。重度の障害のある私が子どもを産めるなんて・・・自分自身も、そして周りも思っていませんでした。

初めてこの腕で我が子を抱いた時の、あのときの感動は今でも忘れられません。腕に感じる我が子の体温・・・重さ・・・全てが愛おしく感じました。しかし感動と同時に不安でいっぱいでもありました。「この子を無事に育ててあげることができるのだろうか？」不安はありましたが、弱音ばかり言っているわけには行きません。目の前には息子がいる。その事が私を強くさせてくれました。

初めて母乳をあげた時、哺乳瓶でミルクをあげた時、オムツを替えたとき・・・それからの日々は、毎日が新鮮で感動の連続でした。

しかし私が子育てをしていくには、私一人で行うことは難しく常に誰かのサポートが必要です。そんな私を支えてくれたのは、両親、妹、祖父母、職場の仲間、介助者、そしてお祝いに来てくださった先生方等、たくさんの方々に支えられ私は子育てライフを送っていくことができます。



何度となく挫けそうな時もありました。でもその度に勇気をくれたのは息子。ママと呼ぶ声。走り寄ってくる姿。そして同じように子育てをしている車いすのママ友でした。私はママとして自分一人では息子にしてあげられないことがあります。

しかし私にも出来ることはたくさんある。子供に精一杯愛情をそそいであげることが出来ます。息子も今年6月、3歳の誕生日を迎え元気いっぱい毎日過ごしています。そんな息子と過ごす毎日は、まるでキラキラ輝く宝石のよう。これから先、どんな壁が現れようとも、この子となら乗り越えていけるそんな風に思います。息子と過ごす毎日を形ある物に、そして2人の足跡の記録として、毎月「悠ちゃん新聞」を作成しています。

これからも、息子の成長を励みに、仕事と子育ての両立を頑張っていきたいとします。そして息子と、小さな幸せをたくさん見つけながら、ゆっくりゆっくり歩んでいきたいとします。



**NPO 法人自立生活センター遊^{ゆうと}TO ピア事務局**

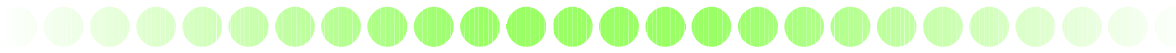
熊谷市中央 1-14 048-526-6760

- ・就労継続支援 B 型事業所(わんすてっぷ、赤いスイトピー)
- ・指定居宅介護事業所(ライフサポートセンター くまがや)

熊谷駅北口から歩いて 15 分ほどの所に、NPO 法人自立生活センター遊 TO ピアがあります。平成 6 年に地域で生活していたり、自立生活を目指している障害者に対して、様々なサポートをしていくことを目的に、自立生活センター遊 TO ピアが設立されました。その後、平成 15 年に NPO 法人格を得て、自立生活センター遊 TO ピアとなりました。遊 TO ピアの大きな特徴は、運営や各種サービスを障害当事者が中心になって行っていることです。これは障害者の立場を一番わかっているのは、障害当事者自身であるという考えからです。事業としては事務局、就労継続 B 型事業所、指定居宅介護事業所を運営しています。事務局は自立生活プログラム、ピアカウンセリング、権利擁護など、障害者の自立生活を促進する事業を行っています。

就労継続支援 B 型事業所(わんすてっぷ 定員 20 名、赤いスイトピー 定員 20 名)では遊 TO ピアの理念に沿って、障害者が自立し地域の中で共生していくことを目指して、リサイクル、販売、印刷、内職やレクレーションなどの活動を行っています。

指定居宅介護事業所のライフサポートセンターくまがやは、障害を持った人の地域生活を支援することを目的に設立され、障害者自立支援法に基づくサービスを行っています。


社会福祉法人 清風会
太陽の園(重症心身障害児施設)

熊谷市津田 1855-1 0493-39-2851

熊谷市内を流れる荒川の南に広がる田園地帯の中に、ひときわ目立つきれいな建物が太陽の園です。太陽の園は重症心身障害児(者)が入所(定員 70 人)する児童福祉法に基づく児童福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院としての機能を併せ持った施設です。

運営については「明るく」「暖かく」「美しく」そして「楽しく」の精神を基本方針とし、入所者と職員は家族であるという考えにたち、人間性あふれる療育を行っています。入所者のうち、学齢者は養護学校への通学や養護学校からの訪問教育を受けています。また、園では月ごとにお花見やひな祭りなどの楽しい行事が行われています。入所利用の他にも短期入所(定員 5 名)や通園事業(定員 15 名)が、利用者とその家族を支援することを目的として行われています。通園事業では午前の活動(集団活動・訓練)や昼のリラックスタイム、午後の活動(集団・個別活動)などが、1日のスケジュールに沿って行われています。また、季節ごとに遠足やドライブも実施されています。外来診療では内科、小児科の一般診療も行われており、地域にもなくてはならない施設になっています。



埼玉県内肢体不自由養護学校9校
高等部卒業生の進路状況

年 度	2005	2006	2007
就 労	0	0	1
訓 練	4	3	3
福祉法施設	24	41	32
地域デイケア・地活	35	32	24
進 学	1	1	1
在 宅	7	6	10
計	71	83	71

[訓練]

国立職業リハビリテーションセンター
東京障害者職業能力開発校など

[福祉法施設]

療護、授産、更生施設、自立支援法事業所
(含 生活介護、就労移行、就労継続等)

[地域デイケア施設]

県条例による小規模作業所
(定員6名から19名)

[地活]

地域活動支援センター

あとがき

今年も「進路のしおり」第16号を発行することができました。

自立支援法が施行されて3年が過ぎようとしています。自立支援法では「障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現、障害のある人の自立」が掲げられ、新しい取り組みが行われてきました。その中での成果や課題も徐々に明らかになりつつあります。

一方、社会情勢は経済不安や雇用不安などが広がり、働くことや将来への不安も出てきています。

学校現場では、学習指導要領の改訂案が提示され、その中では「キャリア教育」(職業観や人生観を育むための教育)の重要性が強調されています。

今まで以上に、養護学校で学び、卒業していく児童生徒たちが現社会の状況を理解し、厳しいであろう社会を乗り切っていく力(生きる力)を身につけることが大切になってきました。

今回の内容では、厳しい社会の中でもあきらめずにチャレンジし成果をあげてきている方々の経験談を取り上げました。又、現状から一歩前へ踏み出そうとする時のお役に立つのではないかと思われる情報を紹介してみました。

今回の記事をお読みになり、毎日の生活や学習に取り組むときや、将来のことを考えるときに、少しでも希望や勇気を持っていただければ幸いです。

「進路のしおり」制作にあたり、こころよく原稿を引き受けて下さった方はもとより、取材先でご協力いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。尚、記事に対するご意見、問い合わせは各校の編集委員までお願いいたします。

(編集委員 栗原)

「進路のしおり」第16号

発行日 2009年3月15日

< 編集・発行 >

埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部
会・肢体不自由養護学校小委員会

埼玉県肢体不自由養護学校進路指導研究会

高本 浩次	県立和光養護学校 048-465-9770
石川 岳男	県立宮代養護学校 0480-35-2432
原澤 宣雄	県立日高養護学校 0429-85-4391
佐藤 高正	県立川島ひばりが丘養護学校 049-297-7753
鈴木 弘	県立熊谷養護学校 048-532-3689
齋藤 武義	県立秩父養護学校 0494-24-1361
卜部 郡司	県立越谷養護学校 048-975-2111
栗原 正明	さいたま市立養護学校 048-622-5631
関根 康恵	富士見市立富士見養護学校 049-253-2820

表紙絵 中学部3年小山早恵さん(和光養護学校)
カットは各校の児童・生徒の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

協賛 埼玉県養護学校校長会

(印刷所) 「株式会社 エル・アートデザイン」

〒361-0023 埼玉県行田市長野 635

TEL 048-555-0551(代) FAX 048-553-2348